

特別支援教育の推進

【現状と課題】

発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導及び必要な支援を行う特別支援教育の推進が求められています。

本県においては、すべての小中学校で校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名が行われるなど、障害のある児童生徒への支援体制は整備されつつあります。また、幼稚園や高等学校においても半数を超える園・学校で校内体制が整備されつつありますが、関係機関と連携した具体的な支援の在り方が課題となっています。

特別支援学校においては、特別支援学校のセンター的機能を強化しながら、小中学校等の教員の専門性の向上を図ることが求められています。

また、一部の特別支援学校では、施設の老朽化や過大規模化、高等部未設置などの課題もあります。

【これからの施策の方向性】

障害のある幼児児童生徒に対する正しい理解と認識を図り、適切な就学を推進します。

小中学校等に在籍する障害のある幼児児童生徒に対する指導・支援体制の整備に努めます。

就学前や学校卒業後を含めた一貫した総合的支援体制の整備に努めます。

特別支援教育に係る地域のセンター的機能の発揮や施設設備の整備など、特別支援学校の充実に努めます。

【主な取組】

障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒との交流及び共同学習を積極的に推進します。

小中学校等に在籍する障害のある児童生徒に対する「個別の指導計画」等の作成・活用を促進するなど、校内支援体制の整備を図ります。

市町村単位の地域連携協議会を機能化し、「個別の教育支援計画」等に基づき、関係機関との連携の下に、適切な指導及び必要な支援が行われるように支援体制の整備を図ります。

また、市町村に対し、学校の実態を踏まえ、特別支援教育支援員の配置を行うよう指導します。

特別支援学校については、教職員の研修の充実に図ることにより、教育的ニーズに応じた支援や地域のセンター的機能の発揮に努めるとともに、高等部の生徒の就職率の向上に努めます。

施設の老朽化や在籍児童生徒の増加に伴う過大規模化等に対応するために、鹿児島盲学校、鹿児島聾学校、鹿児島養護学校や高等特別支援学校等について、順次、整備が図られるよう具体策を検討します。